

滋賀大学大学院経済学研究科

データ × アーツ × 国際連携による新たな総合知に基づく

ビジネス・インサイト養成プログラム

Business insight
training
program

Data × Arts × International Collaboration

経済学研究科博士前期課程では、経済学や経営学などの高度な専門知識を修得できる従来のカリキュラムに加えて、未来のニーズを発見し価値創造する力を養成することを目的に、令和7年度から「ビジネス・インサイト養成プログラム」を開設します。

プログラムの特色

▶ ビジネス・インサイト（＝現場・現物・現実を踏まえた高い問題意識、洞察力）の養成

3つの科目群（人文・社会科学方法論、国際連携実践科目、英語による科目）からビジネス・インサイト向上に向けてバランス良く学べる。

▶ 海外研修でビジネス感覚・国際感覚アップ

アメリカや台湾で、英語による濃密な海外研修が体験できる。
（米国）サンノゼ州立大学でのシリコンバレー・プログラム
（台湾）国立台中科技大学商学院でのサマースクール

▶ 人文・社会科学方法論科目の学修

人文・社会科学（アーツ）分野の授業科目を通じて、論理的思考力を鍛え、定性的アプローチを身に付けながら、価値創造に向けた方法論の幅を広げる。

▶ 英語の実践力強化

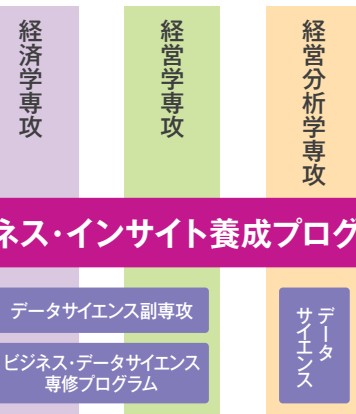
学内でネイティブ教員による英語授業を受講できる。
受講者のレベルに応じたe-ラーニング教材も提供。

国際感覚、現場感覚を高め、 ビジネス・インサイトを磨く！



経済学研究科博士前期課程の 3専攻からエントリーできます！

経済学研究科博士前期課程



人文・社会科学方法論科目群

+

国際連携実践科目群

+

英語による講義科目群



ビジネス

国際感覚 + 現場感覚



ビジネス・インサイトの向上！

Message



岡本 哲弥
大学院経済学研究科
研究科長

今日、様々な分野でデータサイエンスを活かし、価値創造につなげることが期待されています。とくにビジネスでは価値創造に向けて、「三現主義」による解像度の高いドメイン知識が欠かせません。そうしたドメイン知識の獲得には、人文社会科学分野のフィールドワーク、エスノグラフィー、事例研究といった質的研究に基づくビジネス・インサイトが大切になります。

海外研修 Overseas training

本プログラムは、2つの海外研修を選択必修にしています。

海外研修Ⅰ（台湾）



國立台中科技大学商学院における サマースクール(短期研修・英語)

台湾において本学経済学研究科と台中科技大学商学院の両校の大学院生を対象としたサマースクールを行います。TSMCをはじめ半導体・IT関連企業が集中するサイエンス・パークや企業の見学も予定しています。

海外研修Ⅱ（アメリカ）



サンノゼ州立大学における シリコンバレー研修(短期研修・英語)

サンノゼ州立大学シリコンバレー・センターの「Silicon Valley Innovation & Startup Program」においてイノベーションや起業家精神について体験的に学びます。

【研修内容】

- ✓ AIやアントレプレナーシップなどの専門家、シリコンバレーのCEOによる実践的講義。
- ✓ グループワークによる商品開発プロジェクト。
- ✓ Intel、Google、Apple、TeslaなどのIT先進企業の訪問。



ビジネス・インサイト養成プログラム

ビジネス・インサイト養成プログラムは、「人文・社会科学方法論科目群」「国際連携実践科目群」「英語による講義科目群」の3つの科目群からなります。「人文・社会科学方法論科目群」の授業は、人文・社会科学分野における方法論やフレームワークを身に付けたり、また論理的思考力を養ったりするのに役立ちます。「国際連携実践科目群」には、海外研修、野村総合研究所の実務家教員による実践的講義、第一線の研究者・実務家の講演（「ワークショップ」として単位認定）などが含まれます。

	経済学専攻	経営学専攻	経営分析学専攻
人文・社会科学方法論科目群 6単位以上	人文・社会科学分野における方法論と論理的思考力の強化 「アート思考ビジネスデザイン特講」「歴史学方法論特講」「哲学特講」		
	「マクロ経済学特講Ⅰ・Ⅱ」 「欧米経済史特講」	「経営人類学特講」 「日本経営史特講」 「ダイバーシティ マネジメント特講」	
	「ミクロ経済学特講Ⅰ・Ⅱ」「社会学特講」 「行動科学特講」「日本社会史特講Ⅰ・Ⅱ」 「文化人類学特講」		「ビジネス エシックス特講」
国際連携実践科目群 8単位以上	グローバルに通用する実務能力や専門知識へのキャッチアップ 「海外研修Ⅰ（台湾）」「海外研修Ⅱ（アメリカ）」【BI選択必修】 「ワークショップⅠ～Ⅳ」「ワークショップⅤ～Ⅷ」 「経営・コンサルティング特別講座Ⅰ・Ⅱ」「グローバル・ビジネス概論Ⅰ・Ⅱ」 「コンサルティング各論」「インターンシップⅠ・Ⅱ」		
英語による講義科目群 6単位以上	英語によるコミュニケーション能力の獲得 「Business CommunicationⅠ・Ⅱ」,「Academic WritingⅠ・Ⅱ」【BI選択必修】 「Special Lecture on Business Insight」 「Applied International Economics」		
基礎科目 (英語科目／人文・社会科学方法論)	「Business and Economic History」「Microeconomic Analysis」 「Principles of Business Management」「Society and Social Science」 「論理学」「近江商人経営論」		

※「ビジネス・インサイト養成プログラム」修了要件のほか、各専攻の修了要件があります。

修士論文 または 特定課題研究



ビジネス・インサイト養成プログラム 修了の認定

※修了認定バッジはイメージです。

修士 (経済学／経営学／経営分析学)

海外研修の魅力



陳 顧如
大学院経済学研究科
教授

國立台中科技大学サマースクールやシリコンバレー研修は本学教員や大学間の長年の交流を基盤に実現できたオーダーメイドの研修プログラムです。台湾の半導体・IT産業はシリコンバレーからの頭脳選流によって発展し、シリコンバレーと共に世界のIT産業で重要な役割を果たしています。シリコンバレーや台湾の研修を通じて起業や世界の競争を五感で感じ、世界のビジネスの仕組みに触れることは、まさにビジネス・インサイトを養成する近道です。

「英語による講義科目群」には、「Business Communication I・II」「Academic Writing I・II」などネイティブ教員が担当する授業もあり、活きた英語が学べます。
英語力の向上には継続学習が必要ですが、ビジネス・インサイト養成プログラムの参加者には、自分のレベルに応じた自習用のe-ラーニング教材を提供します。



Q&A

Q プログラムに参加するにはどのくらいの英語力が必要ですか？
入学後の英語学習サポートはありますか？

A プログラムに参加するための英語力の条件はありません。誰でも申請すれば参加できます。海外研修では英語での授業の受講も必要になるので、それまでに大学院の英語授業や受講者のレベルに応じたe-ラーニング教材を活用して英語力を向上させてください。

Q 海外研修が必修ですが、費用面が心配です。補助制度はありますか？

A 海外研修の費用については心配はいりません。文部科学省の「人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業」に採択されたプログラムであるため、海外研修に掛かる大半の費用(研修費、交通費、宿泊費など)は令和11年度までは補助金から支給されます。

Q どの専攻の所属でも参加できるのでしょうか？

A はい、参加できます。経済学専攻、経営学専攻、経営分析学専攻のいずれの専攻の学生でもビジネス・インサイト養成プログラムに挑戦できます。

Q 大学院での学びの特徴を教えてください。学部教育とはどのような点が異なりますか？

A 大学院博士前期課程は、特定の専門分野についてより深く学修し、2年目には自身のテーマについて調査研究した内容を修士論文や特定課題研究に取りまとめます。ビジネス・インサイト養成プログラムでは、広く人文・社会科学の知見を取り込むことで専門分野に新たな切り口や観点を取り込んだり、ビジネスで新たな価値創造につなげたりできるようになることを目指します。

入試日程・方式について

入試情報ホームページ
<https://www.shiga-u.ac.jp/nyushi/>



入試課入学試験係
TEL:0749-27-1023 nyuushi@biwako.shiga-u.ac.jp

「文部科学省 令和6年度 人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業 国際連携型」に採択

「The Future(s)=複数形の未来」を切り開いていく高度専門人材には、課題を探索、創造していく力が求められます。滋賀大学大学院経済学研究科において、経済学、経営学の専門性のうえに、データドリブンに課題の最適解を導き出すデータサイエンス教育を強化しながら、リベラルアーツ教育と国際的实践教育を組み込んだ「ビジネス・インサイト養成プログラム」を準備しました。このプログラムでは、国際感覚、現場感覚をもつ、未来の価値創造に貢献できる人材を育成します。同時に社会連携、国際連携を通じて国内外の多様な協力先と交流を広げ深めながら、大学院を「総合知」形成の場へと変革していきます。

